2023. 10～12 №.66

かなしん景況レポート

秋谷の立石

目　次

景気動向	地域経済(全業種総合)	2
	業種別経済	6
	特別調査	18
お客様景況インタビュー	有限会社 白鳩商会 「～信頼される誠実な企業をめざして～」	19
トピックス	「神奈川県の金融経済概況（日本銀行横浜支店：2023年12月）のポイント」	3
	「毎月勤労統計調査」	13

調 査 概 要

調査時期	令和5年11月15日から令和5年12月6日まで
調査地域	横須賀市・逗子市・三浦市・三浦郡葉山町・鎌倉市・横浜市・川崎市・藤沢市・茅ヶ崎市 大和市・綾瀬市・高座郡寒川町
調査方法	調査員による面接聞き取り方式又は対象企業先による直接記入方式
分析方法	各質問項目で、「増加」（上昇）したとする企業が全体に占める構成比と、「減少」（下降）したとする企業の構成比との差（D.I.）を中心にして分析を行いました。
回答率	調査先数　当金庫取引先　500先　回答先　478先　回答率　95.6%

全業種総合天気図

	2023年1～3月	2023年4～6月	2023年7～9月	2023年10～12月	2024年1～3月 来期予想
全業種総合	☂	☁	☁	🌤	☁
製造業	☂	☁	☁	🌤	☁
卸売業	🌧	🌤	☁	☀	🌤
小売業	☂	☂	☁	🌤	☁
サービス業	☂	☁	☁	☁	☂
建設業	☀	☁	☀	☁	🌤
不動産業	☂	☂	🌧	🌤	☀

低調 ← 天気図 → 好調

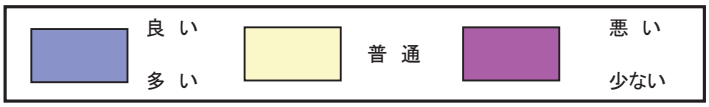
🌧　☂　☁　☁　🌤　☀

この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。

かながわ信用金庫 かなしん

全業種総合 ～業況はサービス業を除きプラス水準で、おおよそ5年ぶりにプラスに転じた～

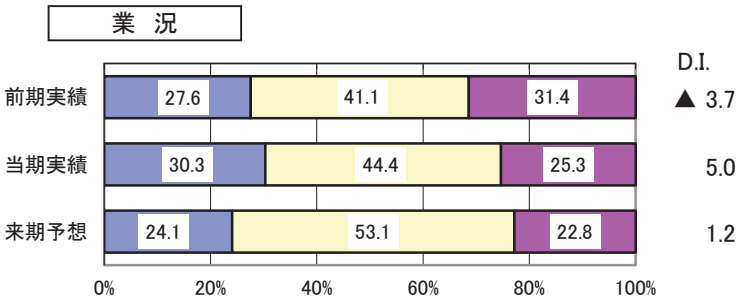
当期実績（2023年10～12月期実績）
来期予想（2024年1～3月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

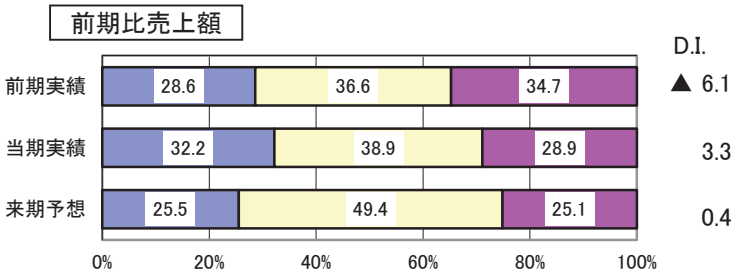
当期の業況判断D.I.は5.0と、対前期比8.7ポイントの改善となり、前回調査時における今期見通し（4.8）を0.2ポイント上回り、2019年1～3月期以来おおよそ5年ぶりにプラス水準に転じました。業種別に見ると製造業、卸売業、小売業、不動産業で改善し、サービス業、建設業は低下、サービス業を除く5業種でプラス水準となりました。来期予想D.I.は1.2と、3.8ポイントの低下となる見込みです。

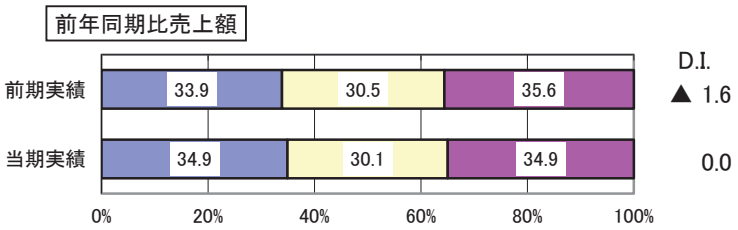


2. 売上額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は3.3と、対前期比9.4ポイントの改善となりました。業種別に見ると不動産業が大幅改善となり、製造業、卸売業、小売業も改善となりました。一方でサービス業、建設業は低下となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は0.0と、7～9月期から1.6ポイントの小幅改善となりました。来期予想D.I.は0.4と、2.9ポイントの小幅低下となる見込みです。

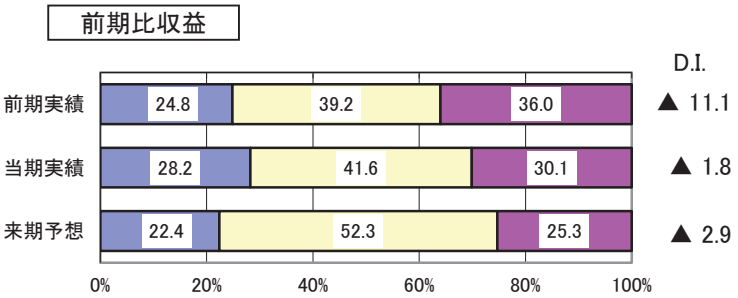


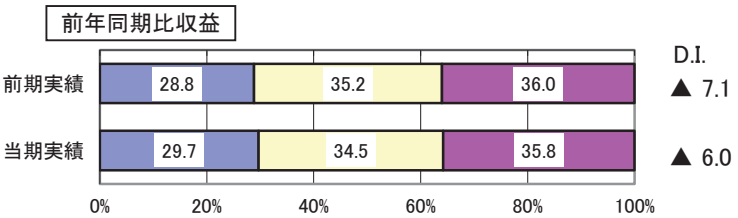


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は▲1.8と、対前期比9.3ポイントの改善となりました。業種別に見ると、製造業、卸売業、小売業、不動産業で改善となり、特に卸売業、不動産業が大幅な改善となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲6.0と、7～9月期から1.1ポイントの小幅改善となりました。来期予想D.I.は▲2.9と、1.1ポイントの小幅低下となる見込みです。

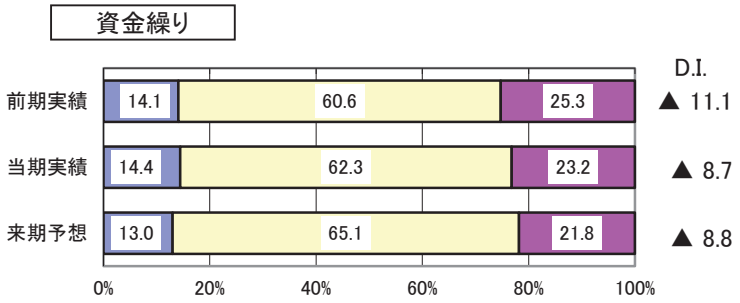




4. 資金繰り

当期 → 予想

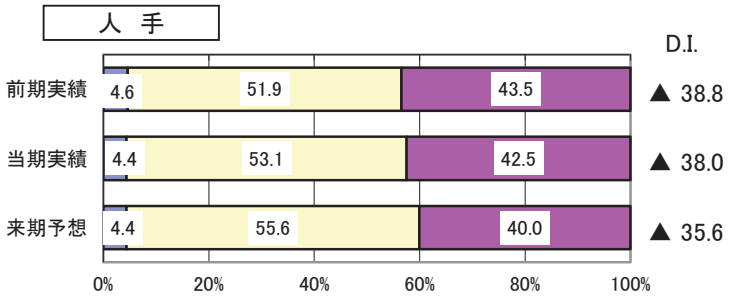
当期の資金繰り判断D.I.は▲8.7と、対前期比2.4ポイントの小幅改善となりました。業種別に見ると、建設業、不動産業を除く4業種で改善となりました。来期予想D.I.は、▲8.8とほぼ横ばいとなる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

当期の雇用判断D.I.（過剰-不足）は▲38.0と、対前期比0.8ポイントの小幅改善となりました。業種別に見ると、卸売業、小売業、サービス業、建設業が厳しい水準となり、なかでも卸売業は▲55.3と、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想D.I.は▲35.6と、人手不足感は小幅に緩和する見込みです。

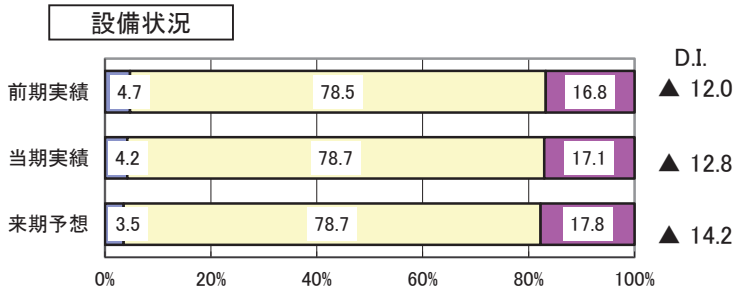


※雇用判断D.I.（過剰－不足）　マイナスは人手不足

6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲12.8と、対前期比0.8ポイントの小幅低下となりました。来期予想D.I.は▲14.2と、不足感は小幅に強まる見込みです。



神奈川県の金融経済概況（日本銀行横浜支店：2023年12月）のポイント

【総括判断】　海外経済の回復ペース鈍化の影響などを受けつつも、緩やかに回復している。（前回判断据え置き）

【主な個別項目の特記事項】

➢生産：IT関連財需要の弱さを受けつつも、持ち直している。（前回判断据え置き）

・輸送機械は、回復している。はん用・生産用・業務用機械は増加している。

➢個人消費：一部に弱めの動きもみられるものの、着実に回復している。（前回判断据え置き）

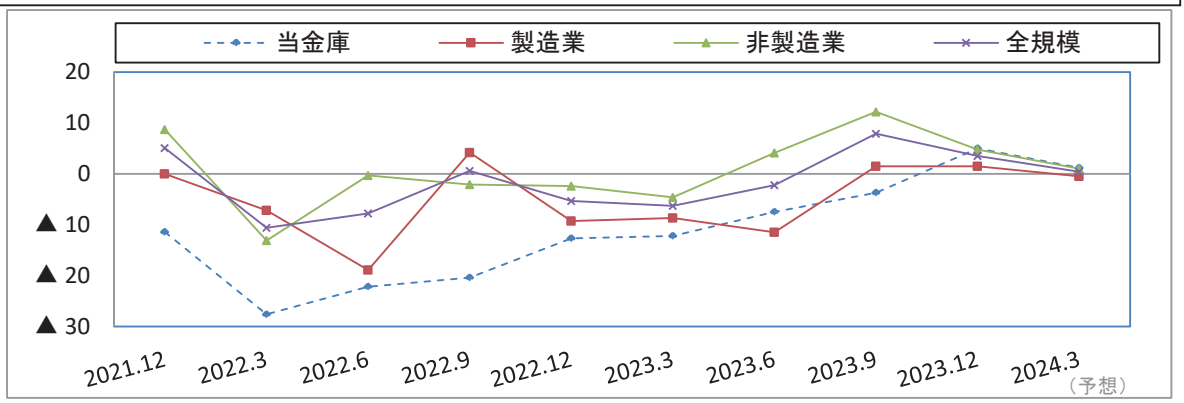
・百貨店販売額は持ち直しており、スーパー販売額は底堅く推移、新車登録台数は回復している。

➢住宅投資：弱めの動きとなっている。（前回判断据え置き）

・23年10月の新設住宅着工戸数は、持家が減少したものの、分譲マンション、貸家、分譲戸建てが増加したことから、前年を上回った。

【先行きリスク要因】　海外経済の減速、コスト高（物価高）等

法人企業景気予測調査(横浜財務事務所:全規模、製造業、非製造業)、当金庫業況DIの推移



●法人企業景気予測調査（令和5年10～12月期）

・大企業も含めた全規模・全産業の業況判断D.I.は3.5と、対前期比4.4ポイント低下しました。物価高や人手不足、人件費上昇などへの懸念が広がっています。

・製造業の業況判断D.I.は1.5となりました。原材料価格の高騰を販売価格への転嫁が進んだ企業が多くみられましたが、対前期比横ばいとなりました。

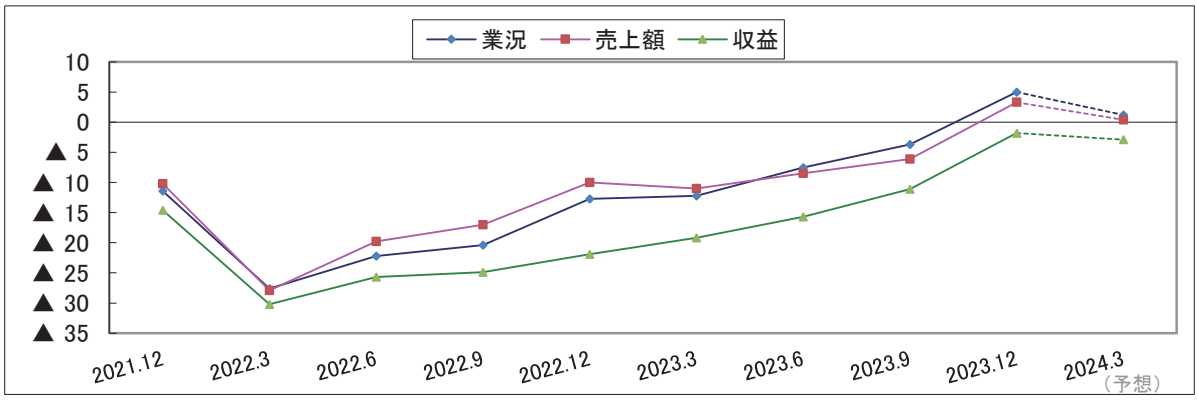
・非製造業の業況判断D.I.は4.8と、対前期比7.4ポイント低下しましたが、プラス水準を維持しました。新型コロナウイルスの5類移行後、初の年末年始を控え消費の活性化が期待されています。

・製造業では窯業・土石製品製造業等が、非製造業では情報通信業、娯楽業等が低下した主な業種となりました。

●当金庫景気動向調査

・全業種の業況判断D.I. は5.0と、対前期比8.7ポイントの改善となりプラス水準に転じました。来期は1.2と3.8ポイント低下する見込みです。製造業と非製造業で集計したところ、製造業は7.5と、14.0ポイントの改善、非製造業は4.4と7.5ポイントの改善となり、プラス水準に転じました。

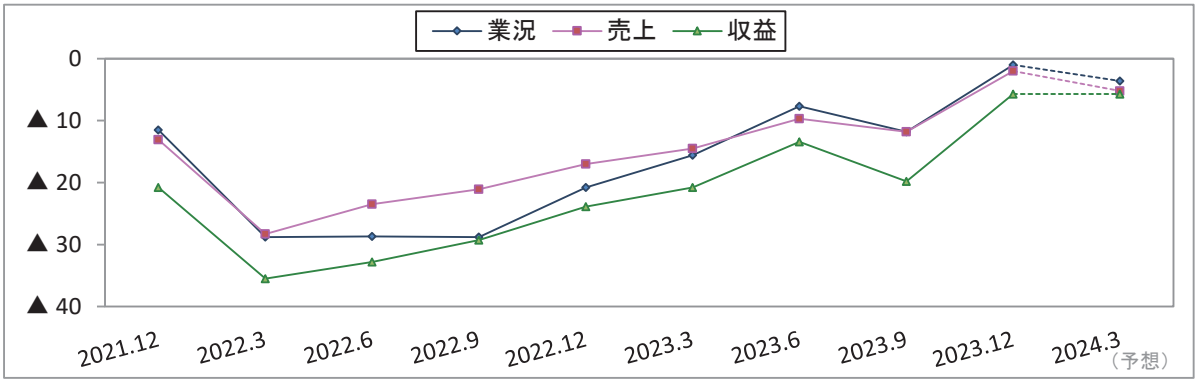
業況・売上額・収益D.I.の推移(全業種総合:当金庫)



2023年10～12月期の業況判断D.I.は5.0と、対前期比8.7ポイントの改善となり、前回調査時における今期見通し（4.8）を0.2ポイント上回りました。売上額判断D.I.は3.3と、対前期比9.4ポイントの改善、業況、売上額ともにおおよそ5年ぶりにプラス水準に転じました。収益判断D.I.は▲1.8と、9.3ポイントの改善となりました。「そろそろ景気が上向きになってくると思われるが、海外の動向が今一つ不透明である」（製造業）、「燃料価格の高止まりが痛い」（サービス業）、「仕事量の増加は感じるが、人手不足でこなすことができない」（建設業）、「お客様の物件購入意欲がやや減少しているように見られる」（不動産業）等、今期は業況が改善したものの、海外経済の動向や人手不足、燃料価格等の値上り等を、先行きのリスク要因として捉えているコメントが比較的多く見られました。

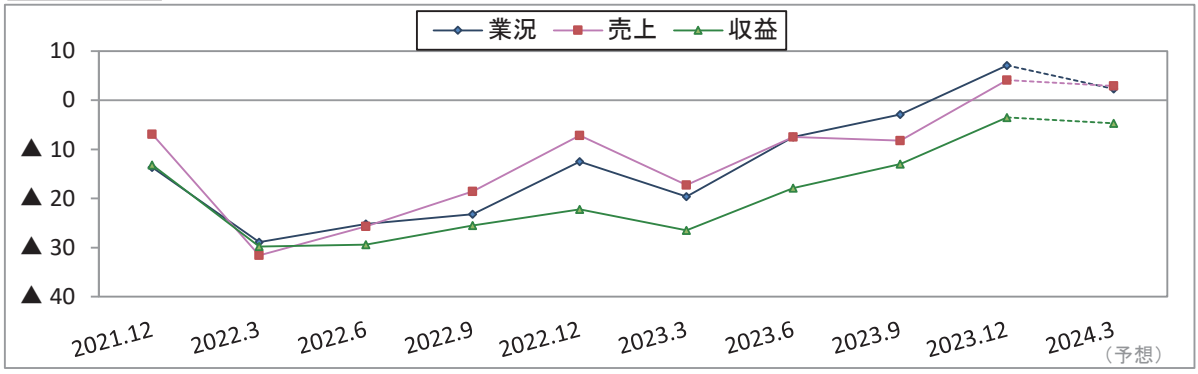
地区別の業況・売上・収益の推移（当金庫）

横須賀地区



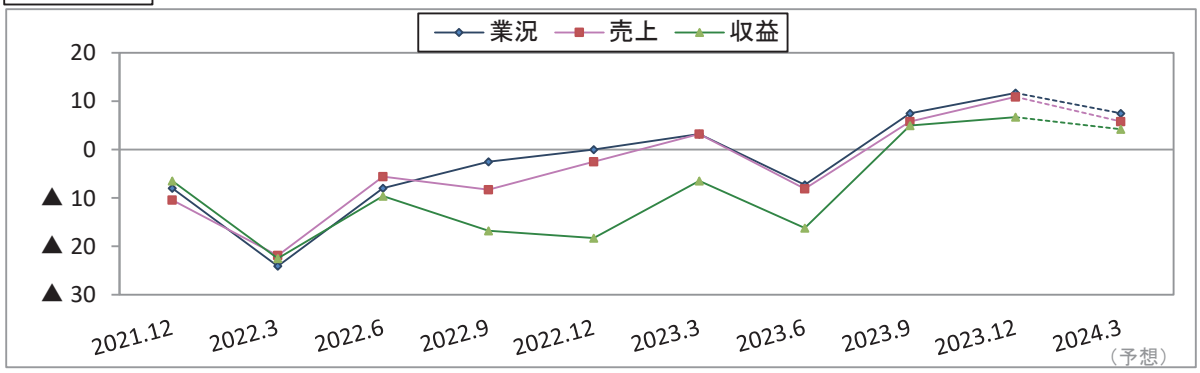
横須賀地区の2023年10～12月期の業況判断D.I.は▲1.0と、10.8ポイントの改善となり、売上収益についても改善となりました。来期予想については、業況判断D.I.は▲3.6と、2.6ポイント低下する見込みです。売上は低下、収益は横ばいの見込みです。

横浜地区



横浜地区の2023年10～12月期の業況判断D.I.は7.1と、対前期比10.0ポイントの改善となり、プラス水準に転じました。売上、収益についても改善しました。来期予想については、業況判断D.I.は2.3と、4.8ポイント低下、売上、収益についても低下する見込みです。

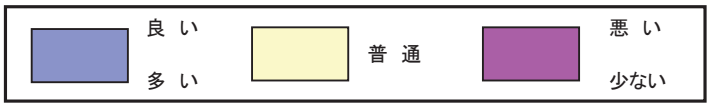
藤沢地区



藤沢地区の2023年10～12月期の業況判断D.I.は11.7と、対前期比4.2ポイントの改善となり、売上、収益についても改善し、各指標とも最も良い地区となりました。来期予想については、業況判断D.I.は7.5と、4.2ポイント低下となり、売上、収益についても低下する見込みです。

製造業 ～今期の業況はプラス水準に転じるも、来期は再びマイナス水準の見込み～

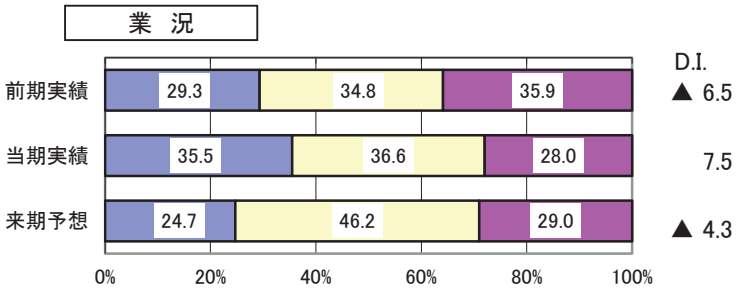
当期実績（2023年10～12月期実績）
来期予想（2024年1～3月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

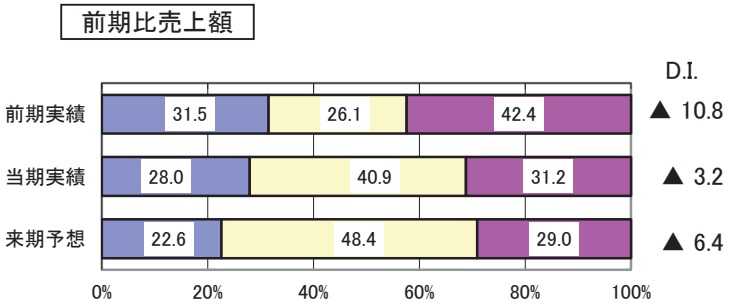
当期の業況判断D.I.は7.5と、対前期比14.0ポイントの改善となり、前回調査時における今期見通し（3.2）を4.3ポイント上回りました。来期予想については、D.I.は▲4.3と、11.8ポイント低下し、再びマイナス水準に転じる見込みです。

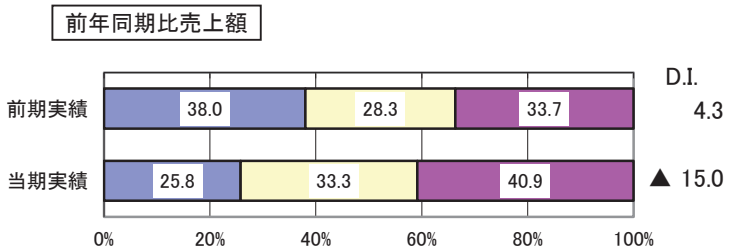


2. 売上額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は▲3.2と、対前期比7.6ポイントの改善となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲15.0と、7～9月期から19.3ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲6.4と、3.2ポイントの低下をする見込みです。

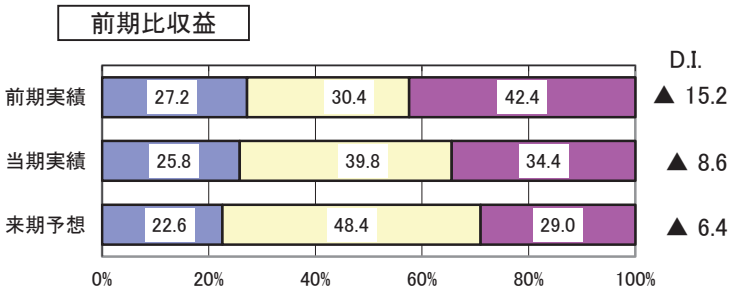


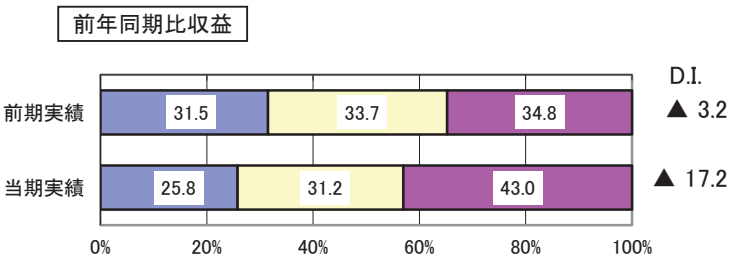


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は▲8.6と、対前期比6.6ポイントの改善となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲17.2と、7～9月期から14.0ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲6.4と、さらに2.2ポイントの改善となる見込みです。

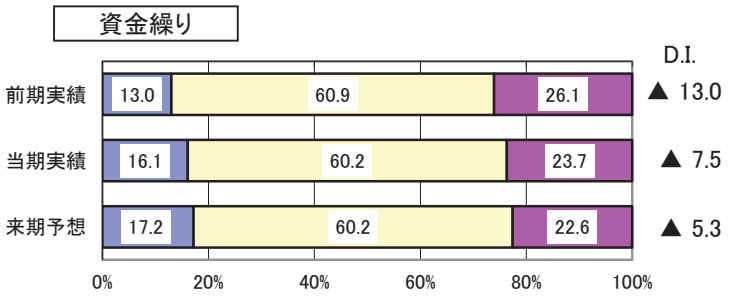




4. 資金繰り

当期 → 予想

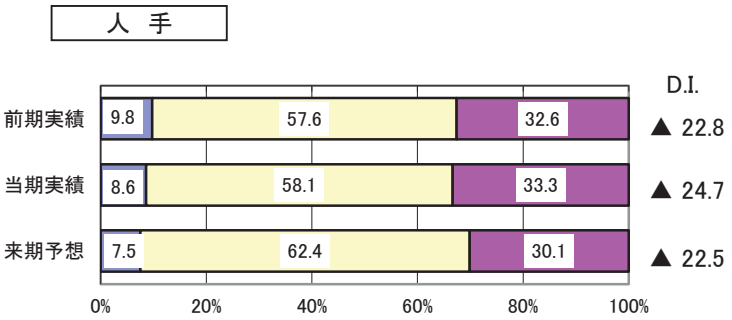
当期の資金繰り判断D.I.は▲7.5と、対前期比5.5ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲5.3と、さらに2.2ポイントの改善となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

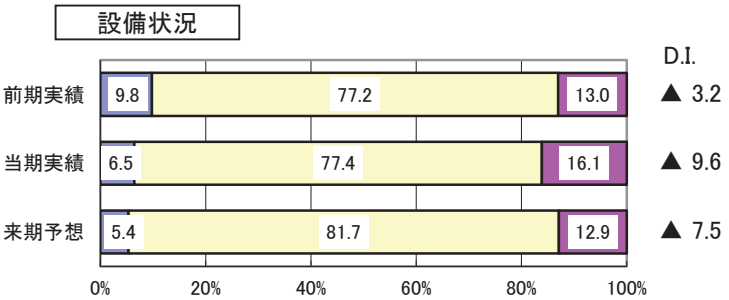
当期の雇用判断D.I.（過剰-不足）は▲24.7と、対前期比1.9ポイントの小幅低下となりましたが、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲22.5と、小幅改善し、今期同様最も良い水準の業種となる見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲9.6と、対前期比6.4ポイント低下となりました。来期予想については、D.I.は▲7.5と、不足感は小幅に緩和する見込みです。

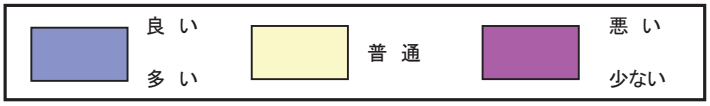


調 査 先 の コ メ ン ト

○戻りきらない景況の中、下降傾向がみられ苦しい状況が続くと思われる。
○夏以降緩やかに減少してきた売上は、12月、1月に大きく悪化の様相を呈してきた。
○景況は特に変化はない。
○9月から他社商品の製造を始めたため売上増になった。
○2024年になれば景気は少し良くなると思われる。
○横須賀市内の大型建設工事がほぼ完了し、売上は年ベースで減少するが、運転業務、メンテナンス業務の受注に成功し、今後30年間は安定した売上、収益が期待できる。
○新規ラインの立上げによる業績への影響が来年３～４月より顕在化する見通しである。ただし、それらにともなう人員の確保、倉庫の確保等にともなうコストアップの問題もあり、注意を要する。政治の不安定要素もあり先行きは不透明である。
○そろそろ景気が上向きになってくると思われるが、海外の動向が今一つ不透明である。
○人手不足が顕著になってきた。
○製造業は業績が下降しているとの話を聞く。いろいろな事にチャレンジし上昇するツールを自ら作り出さないと衰退するしかないと思っている。
○年末により売上額はやや増加しているが、期末（年明け）はやや減少傾向にある。
○中国等の木材の大量消費国の経済が不透明で、世界的な需給動向が気がかりである。

卸 売 業 ～業況、売上額、収益は大幅改善となるも、来期は大幅低下の見込み～

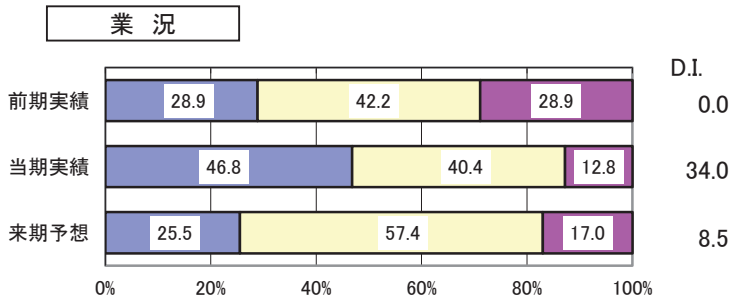
当期実績（2023年10～12月期実績）
来期予想（2024年1～3月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

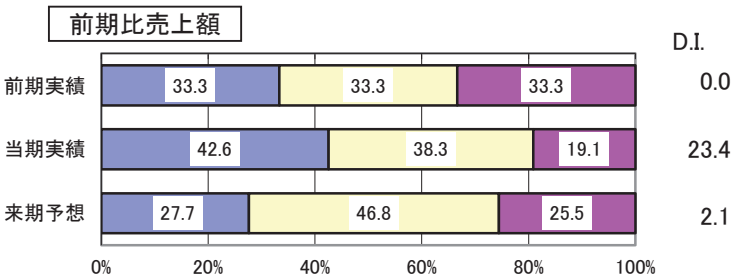
当期の業況判断D.I.は34.0と、対前期比34.0ポイントの大幅改善となり、最も改善幅が大きな業種となりました。前回調査時における今期見通し（4.4）を29.6ポイントと、大幅に上回り、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は8.5と、25.5ポイントの大幅な低下となりますが、プラス水準は維持する見込みです。

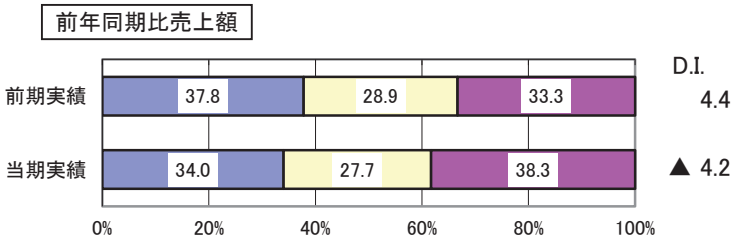


2. 売 上 額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は23.4と、対前期比23.4ポイントの大幅な改善となり、業況同様、最も良い水準の業種となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲4.2と、7～9月期から8.6ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は2.1と、21.3ポイントの大幅な低下となりますが、プラス水準は維持する見込みです。

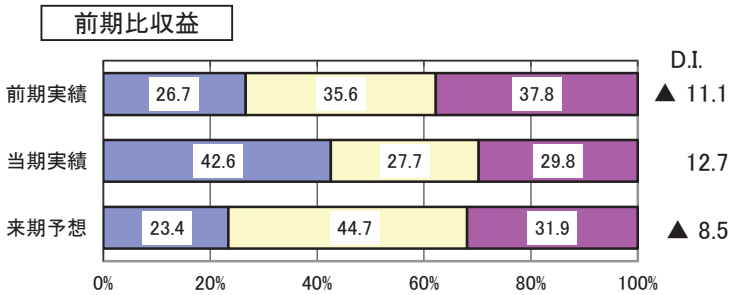


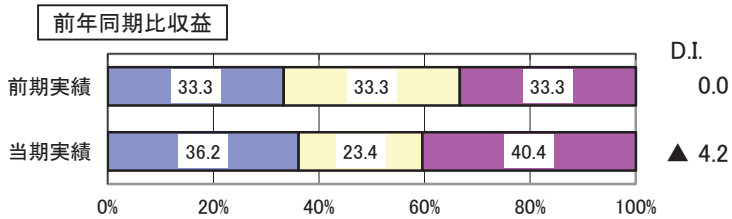


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は12.7と、対前期比23.8ポイントの大幅な改善となり、プラス水準に転じ、最も良い水準の業種となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲4.2と、7～9月期から4.2ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲8.5と、21.2ポイントの大幅な低下となり再びマイナス水準に転じる見込みです。

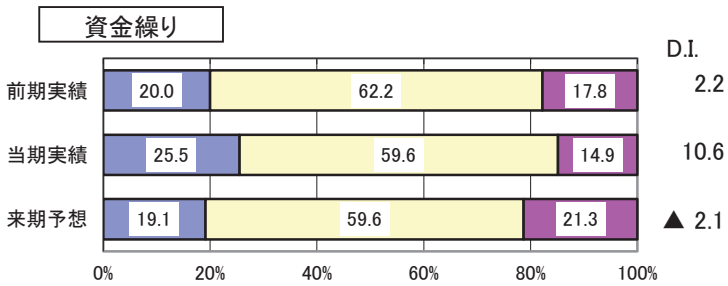




4. 資金繰り

当期 → 予想

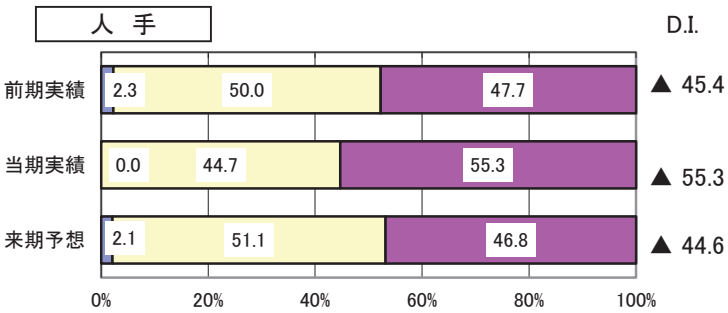
当期の資金繰り判断D.I.は10.6と、対前期比8.4ポイントの改善となり、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲2.1と、12.7ポイントの低下となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

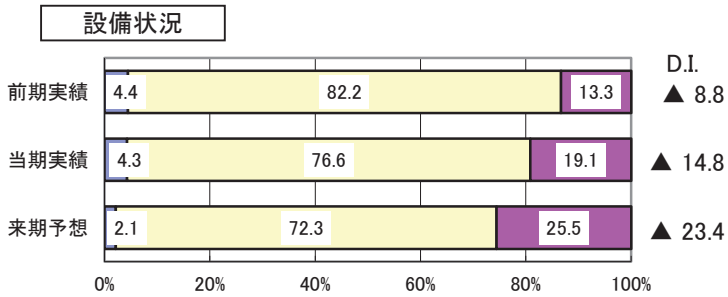
当期の雇用判断D.I.（過剰−不足）は▲55.3と、対前期比9.9ポイントの低下となり、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲44.6と、10.7ポイントの改善となりますが、厳しい水準が続く見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲14.8と、対前期比6.0ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲23.4と、不足感はさらに強まる見込みです。



調査先のコメント

○仕入価格の値上げ、また、運賃改定（値上げ）が何回もあり、取引先には価格について、一応理解いただき、値上げに応じていただいているが、何回もあると対応が難しくなっているのが現状である。

○昨年と比べ、件数および大型現場が少なく、価格競争が激しく利益が薄い。今年後半は大型案件の完了による売上の伸びが見込まれる。

○業界全体で取引先の信用不安が目立ち始めた。

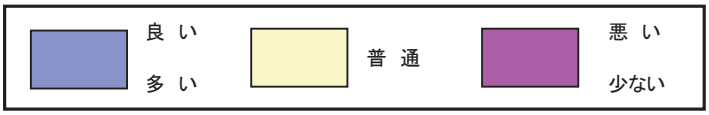
○人手不足による残業代の大幅増加が、伸ばした利益を圧迫している。

○見積依頼は増加傾向だが、受注までの時間がかかっている。また、仕入単価が値上がり気味で先行きが不安である。

○コロナ禍明けは人も物も動きが出てきた感はあったが、時間が経つにつれ、コロナ禍と同じような動きになってきているように感じる。

小 売 業　～業況、売上額、収益は改善しプラス水準に転じるも、来期は低下の見込み～

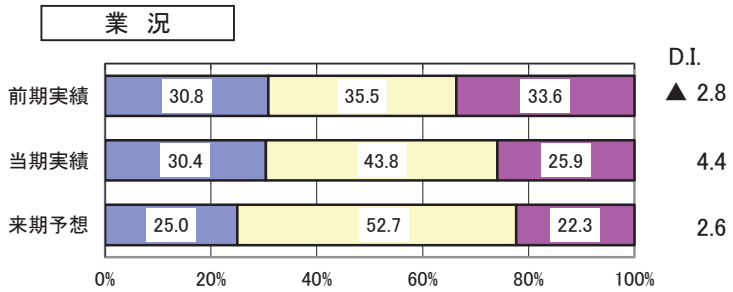
当期実績（2023年10～12月期実績）
来期予想（2024年1～3月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

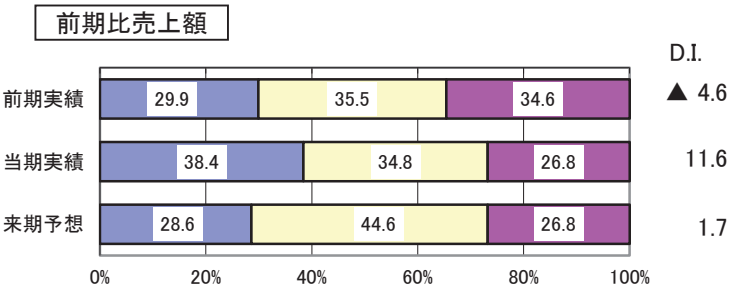
当期の業況判断D.I.は4.4と、対前期比7.2ポイントの改善となり、プラス水準に転じました。前回調査時における今期見通し（8.4）を4.0ポイント下回りました。来期予想については、D.I.は2.6と、1.8ポイントの低下となりますが、プラス水準を維持する見込みです。

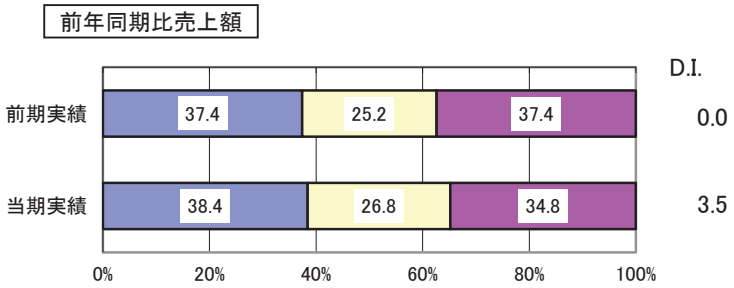


2. 売 上 額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は11.6と、対前期比16.2ポイントの改善となり、プラス水準に転じました。対前年同期比の売上額判断D.I.は3.5と、7～9月期から3.5ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は1.7と、9.9ポイントの低下となりますが、プラス水準を維持する見込みです。

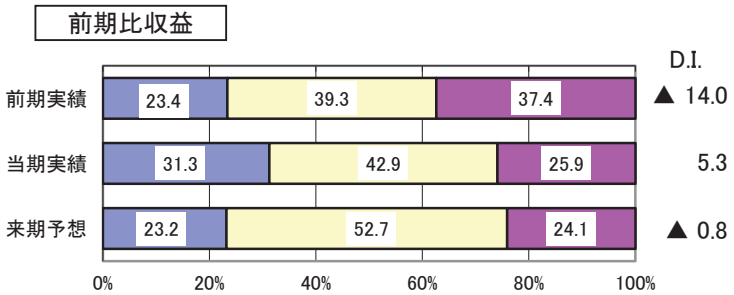


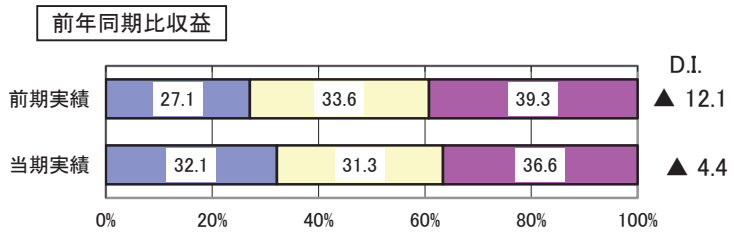


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は5.3と、対前期比19.3ポイントの改善となり、プラス水準に転じました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲4.4と、7～9月期から7.7ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲0.8と、6.1ポイントの低下となり再びマイナス水準に転じる見込みです。

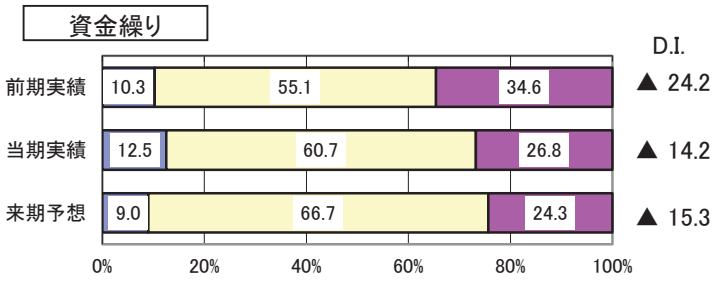




4. 資金繰り

当期 → 予想

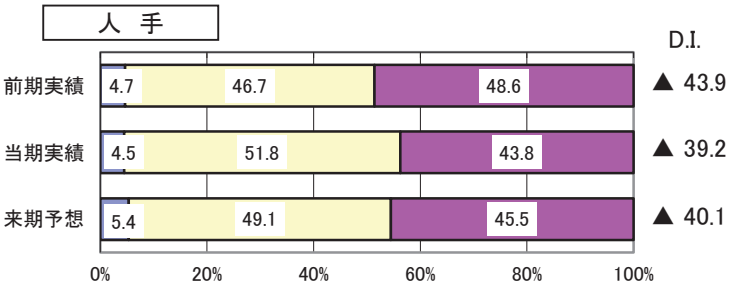
当期の資金繰り判断D.I.は▲14.2と、対前期比10.0ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲15.3と、1.1ポイントの低下となり、最も低い水準の業種となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

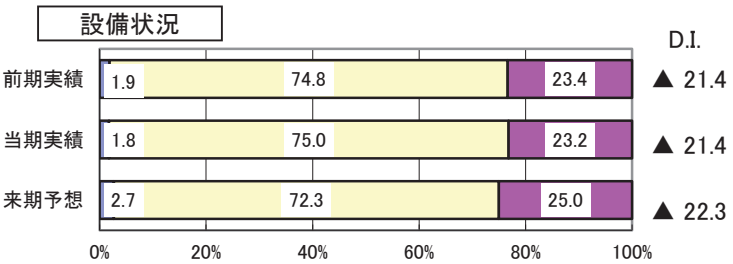
当期の雇用判断D.I.（過剰-不足）は▲39.2と、対前期比4.7ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲40.1と、人手不足感は小幅に強まり、厳しい水準が続く見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲21.4と、対前期比は横ばいとなりました。来期予想については、D.I.は▲22.3と、不足感はほぼ横ばいとなる見込みです。

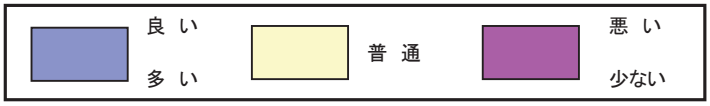


調査先のコメント

○9月、10月、11月は例年に比べ気温が異常に高かった。景気を云々する以前に気温が高いことが問題であった。11月中旬過ぎより気温が下がり始めたため、それなりに売り上げが戻ってきた。
○当店は青果小売業なので天候次第である。
○金利が上昇傾向であり、今後の設備投資意欲に水を差されそうである。
○多くの業界で不正が発生して、商売に対するお客様の信用が落ちている。
○水道光熱費や最低賃金が上昇するばかりで、商品の原価も上がり、大手スーパーに対抗できず非常に苦しい状況であり、改善の見込みが立たない。
○人流も戻り売上も好調に推移している。しかし、材料費や人件費が上昇して、これ以上の原価の上昇は利益を圧迫する危険性がある。プレミアム付商品券は買い物の喚起に役立っている。
○生活に余裕が出てこないと買ってもらえない商売なので、成り行きを見ているしかない状況である。仕入れ、電気代、経費の値上り等、すべてが問題で頭を痛めている。日本より海外の問題に影響を受けるようで、どの方向に努力していいか分からない。
○外国人観光客のお金の使い方が、物から体験に変わってきた感がある。
○原材料価格が上がり続けているが、販売価格を上げると、価格に敏感なお客様は以前のように買ってくれない時がある。
○人材不足が大きな問題になっている。
○円安の影響が続いていて、外国人観光客が目立つ。

サービス業 ～業況、売上額、収益は最も低い水準となり、来期も最も低い水準の見込み～

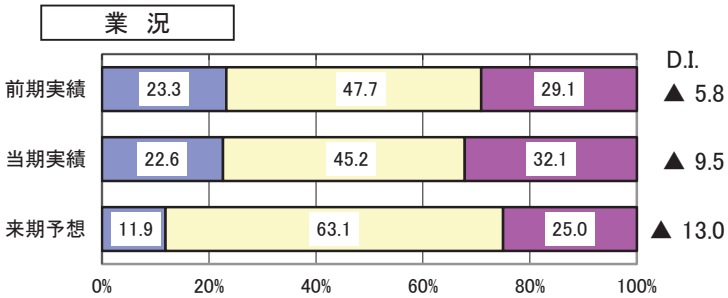
当期実績（2023年10～12月期実績）
来期予想（2024年1～3月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

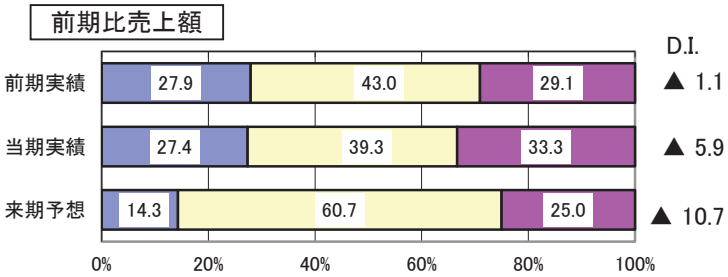
当期の業況判断D.I.は▲9.5と、対前期比3.7ポイントの低下となりました。前回調査時における今期見通し（▲8.1）を1.4ポイント下回り、最も低い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲13.0と、さらに3.5ポイントの低下となり、今期同様、最も低い水準の業種となる見込みです。

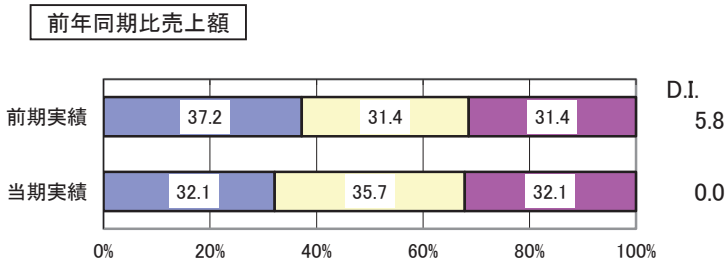


2. 売上額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は▲5.9と、対前期比4.8ポイントの低下となり、最も低い水準の業種となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は0.0と、7～9月期から5.8ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲10.7と、さらに4.8ポイントの低下となり、業況同様、最も低い水準の業種となる見込みです。

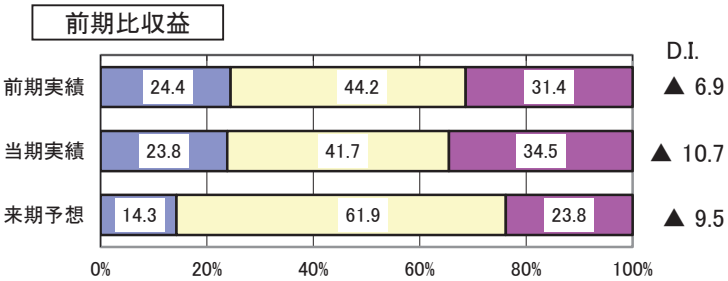


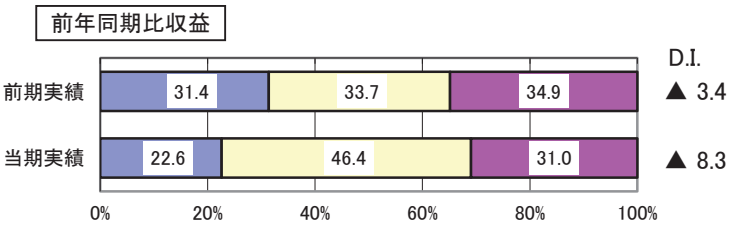


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は▲10.7と、対前期比3.8ポイントの低下となり、最も低い水準の業種となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は、▲8.3と、7～9月期から4.9ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲9.5と、1.2ポイントの小幅改善するものの、業況、売上額同様、最も低い水準の業種となる見込みです。

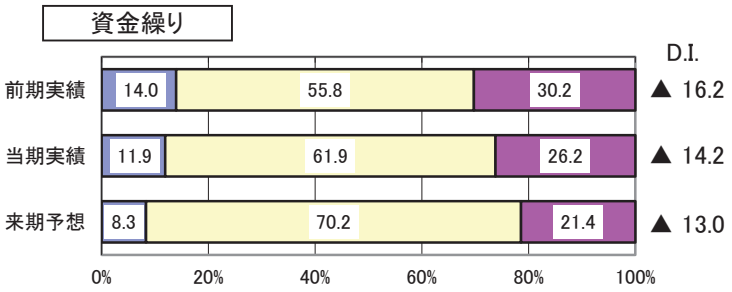




4. 資金繰り

当期 → 予想

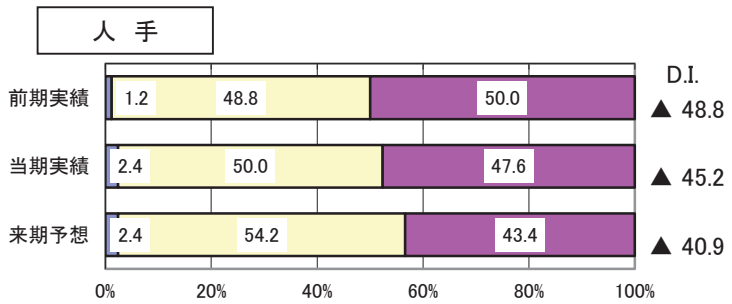
当期の資金繰り判断D.I.は▲14.2と、対前期比2.0ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲13.0と、さらに1.2ポイントの小幅改善となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

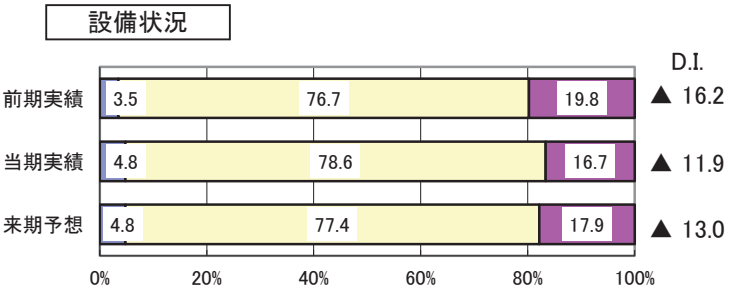
当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲45.2と、対前期比3.6ポイントの改善となりましたが、卸売業に次いで厳しい水準の業種となりました。来期予想についても、D.I.は▲40.9と、4.3ポイント改善するものの、人手不足感は、厳しい状況が続く見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲11.9と、対前期比4.3ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲13.0と、不足感は小幅に強まる見込みです。



調査先のコメント

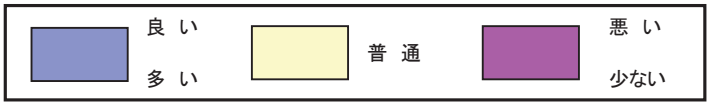
○燃料価格の高止まりが痛い。
○不動産の登記手続きにおいて、中古不動産の購入に際し、ローンを使わず現金で一括購入するケースが増加していると思われる。
○新たに営業所を購入、準備したため、設備に関しては当年度内はやや過剰の見通しである。
○インバウンドが急増している。

毎月勤労統計調査

賃金、労働時間及び雇用の変動を明らかにすることを目的に厚生労働省が実施する調査です。賃金や労働時間の増減は景気の状態を表すだけでなく、消費などにも影響を与えるため非常に重要な経済指標であり、常用労働者5人以上の事業所を対象に、国の重要な統計調査である基幹統計調査として実施しています。中でも現金給与総額のデータが最も重視されており、令和5年10月分の現金給与総額は、前年同月比1.5%増の279,172円で、うち一般労働者が363,226円（1.6%増）パートタイム労働者が103,132円（3.2%増）となりました。しかし、物価の変動を考慮した実質賃金は19カ月連続でマイナスとなっています。

建設業 ～業況は低下したがプラス水準は維持。来期もプラス水準の見込み～

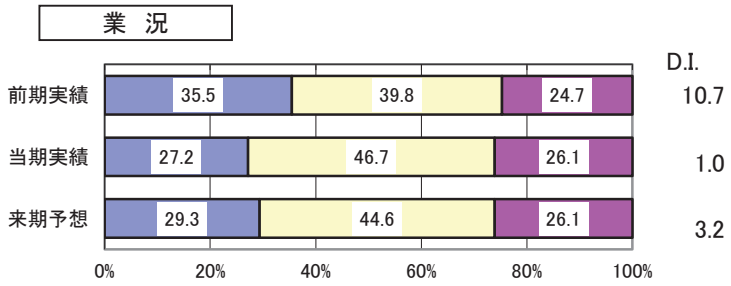
当期実績（2023年10～12月期実績）
来期予想（2024年1～3月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

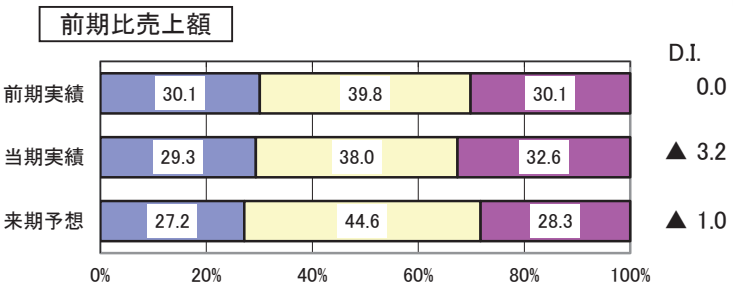
当期の業況判断D.I.は1.0と、対前期比9.7ポイントの低下となりましたが、プラス水準を維持しました。前回調査時における今期見通し（12.9）を11.9ポイント下回りました。来期予想については、D.I.は3.2と、2.2ポイントの改善をする見込みです。

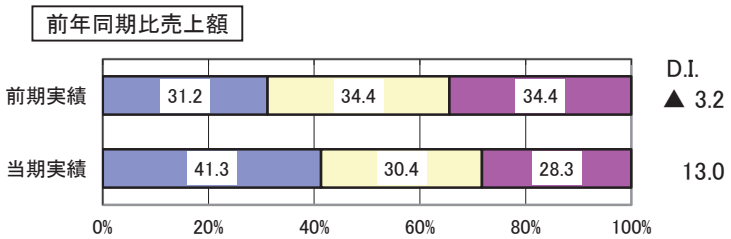


2. 売上額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は▲3.2と、対前期比3.2ポイントの低下となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は13.0と、7～9月期から16.2ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲1.0と、2.2ポイントの改善をする見込みです。

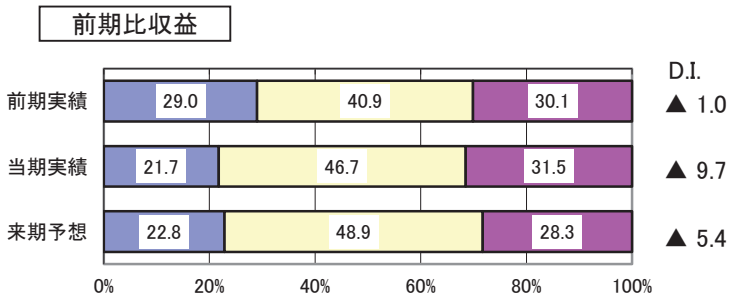


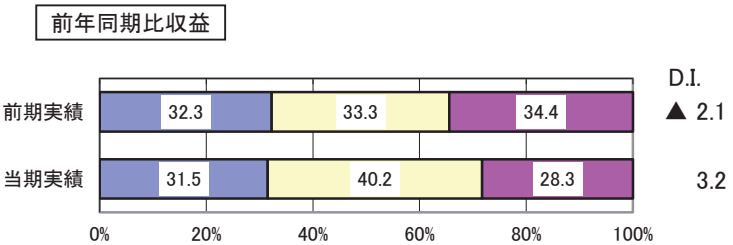


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は▲9.7と、対前期比8.7ポイントの低下となりました。対前年同期比の収益判断D.Iは3.2と、7～9月期から5.3ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲5.4と、4.3ポイントの改善をする見込みです。

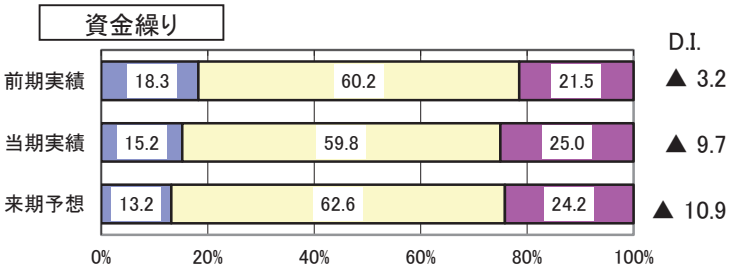




4. 資金繰り

当期 → 予想

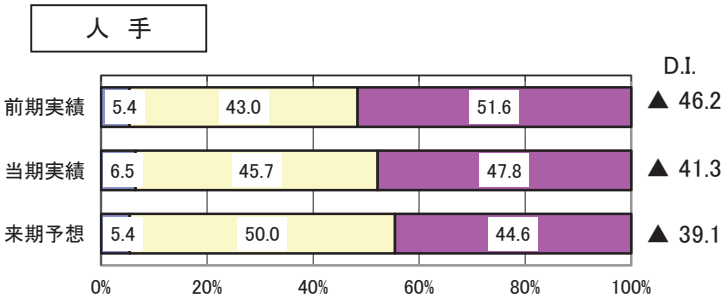
当期の資金繰り判断D.I.は▲9.7と、対前期比6.5ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲10.9と、さらに1.2ポイントの小幅低下をする見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

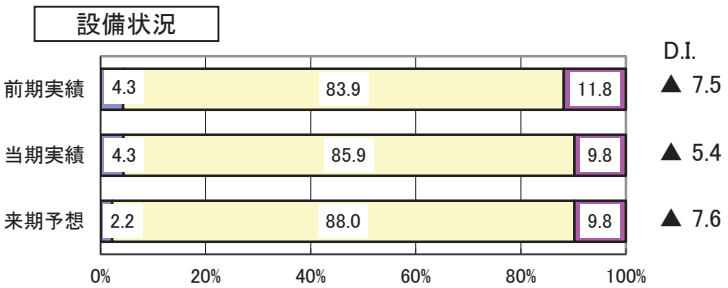
当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲41.3と、対前期比4.9ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲39.1と、さらに2.2ポイント改善するもの、人手不足感は、厳しい水準が続く見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲5.4と、対前期比2.1ポイントの小幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲7.6と、不足感は小幅に強まる見込みです。

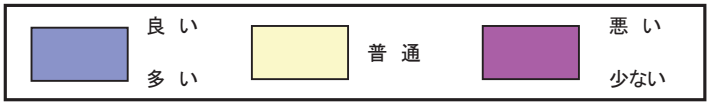


調 査 先 の コメント

○円安による燃料費の高騰と、運輸業の人手不足等で仕入材料の値上げが続いている。ガソリン・軽油に対するトリガー条項の発動や、ガソリン税、消費税の二重課税の見直しを期待したい。
○現状のままでは経済が悪くなり、庶民の生活も困窮する。
○物価高を反映して、単価が上がるのは8割程である。
○工事資材（電線、ケーブル）の納期の回答が不明で、受注活動を停止している。原因を調査しているところである。
○仕事量の増加は感じるが、人手不足でこなすことができない。

不動産業 ～足元の業況は大幅な改善となるも、業況を厳しくとらえているコメントが多い～

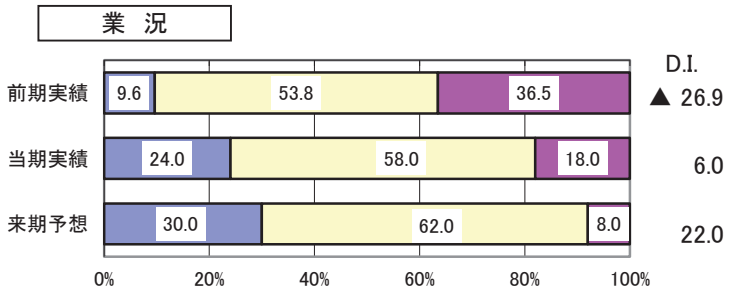
当期実績（2023年10～12月期実績）
来期予想（2024年1～3月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

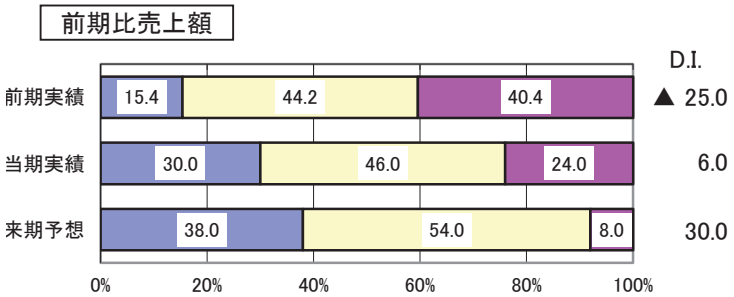
当期の業況判断D.I.は6.0と、対前期比32.9ポイントの大幅改善となり、プラス水準に転じ、卸売業に次いで改善幅が大きな業種となりました。前回調査時における今期見通し（7.6）を1.6ポイント下回りました。来期予想についてはD.I.は22.0と、さらに16.0ポイントの改善となり、最も良い水準の業種となる見込みです。

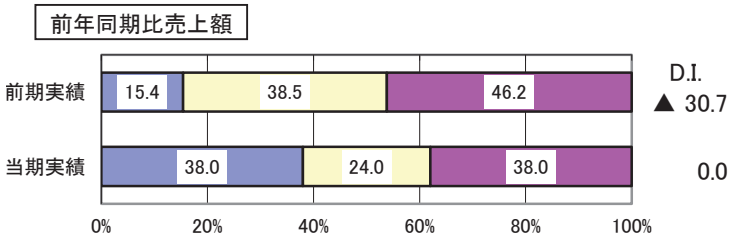


2. 売上額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は6.0と、対前期比31.0ポイントの大幅改善となり、プラス水準に転じ、改善幅が最も大きな業種となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.についても0.0と、7～9月期から30.7ポイントの大幅な改善となりました。来期予想については、D.I.は30.0と、24.0ポイントの大幅な改善となり、業況同様最も良い水準の業種となる見込みです。

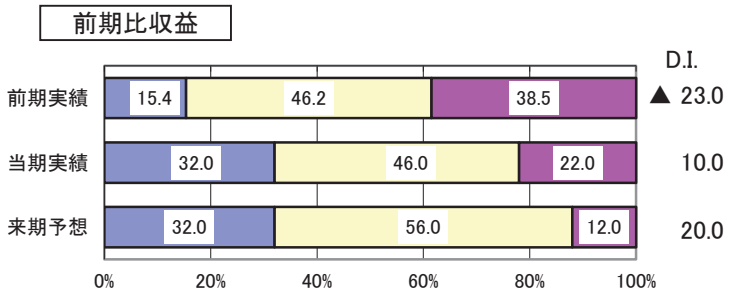


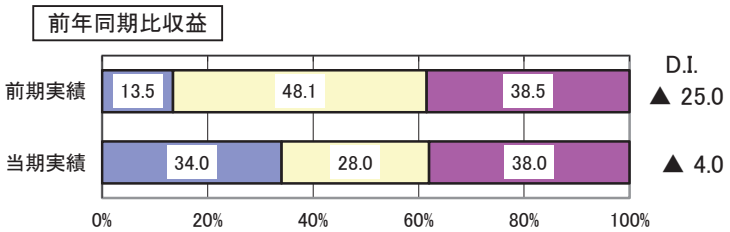


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は10.0と、対前期比33.0ポイントの大幅な改善となり、プラス水準に転じ、売上額同様、最も改善幅が大きな業種となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲4.0と、7～9月期から21.0ポイントの大幅な改善となりました。来期予想については、D.I.は20.0と、10.0ポイントの改善となり、業況、売上額同様、最も良い水準の業種となる見込みです。

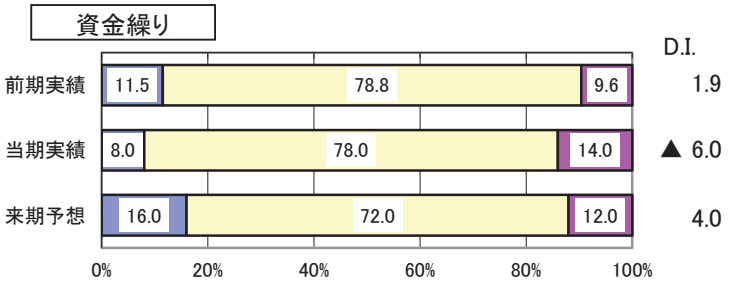




4. 資金繰り

当期 → 予想

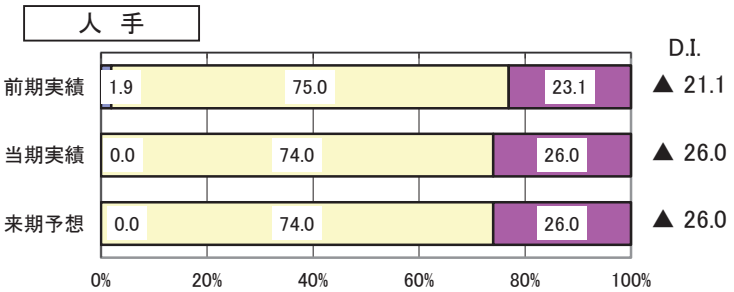
当期の資金繰り判断D.I.は▲6.0と、対前期比7.9ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は4.0と、10.0ポイントの改善となり、プラス水準に転じ、最も良い水準の業種となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲26.0と、対前期比4.9ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.▲26.0と、人手不足感は横ばいとなる見込みです。



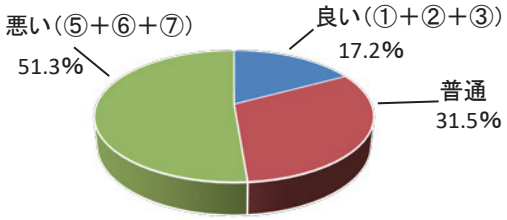
調査先のコメント

○高額物件に対する反応が鈍くなってきている。
○建築関連コストの増加に歯止めがかからず厳しい収益環境が続いている。土地仕入価格も高止まり傾向で支出増が続いている。
○今後は販売が厳しくなり、商品物件の在庫の増加傾向が一層強くなると思われる。
○物価の値上りが著しいが空室が多く、家賃には転嫁できない。中小企業の給料が上がり景気の上昇機運が高まらない限り、不動産業はしばらく厳しいのではないかと考えている。
○国土交通省の住宅着工統計によると、9月の着工戸数は、前年同月比で減少しており、10～12月もさらに減少する状況となっている。建築業界は大手ハウスメーカーも受注が減少していると思うが、中小企業はさらに大変な時期になると思われるので、事業内容を見直す等の対応が必要と考えている。
○お客様の物件購入意欲がやや減少しているように見られる。

特別調査 ・・・・・・「2024年（令和6年）の経営見通し」

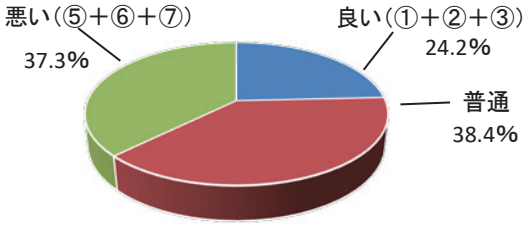
1.御社では、2024年の日本の景気をどのように見通していますか。
～2024年、日本の業況D.I.は▲34.1と、1年前（▲55.5）と比較すると、21.4ポイントの大幅改善となった～

2024年の日本の景気の見通しについては、①「非常に良い」が0.4%、②「良い」が2.8%、③「やや良い」が13.9%で景気が良いと見通している回答が17.2%を占めた。一方、⑤「やや悪い」が37.3%、⑥「悪い」が12.0%、⑦「非常に悪い」が1.9%で景気が悪いと見通している回答が51.3%を占めた。この結果、業況D.I.は▲34.1となった。



2.御社では、2024年の自社の業況（景気）をどのように見通していますか。
～2024年の自社の業況D.I.は▲13.1と、1年前（▲33.5）と比較すると、20.4ポイントの大幅改善となった～

2024年の自社の業況（景気）については、①「非常に良い」が0.9%、②「良い」が3.9%、③「やや良い」が19.5%で、自社の業況を良いと見通している回答が24.2%を占めた。一方、⑤「やや悪い」が29.2%、⑥「悪い」が6.9%、⑦「非常に悪い」が1.3%で、自社の業況を悪いと見通している回答が37.3%を占めた。この結果、業況D.I.は▲13.1%となった。

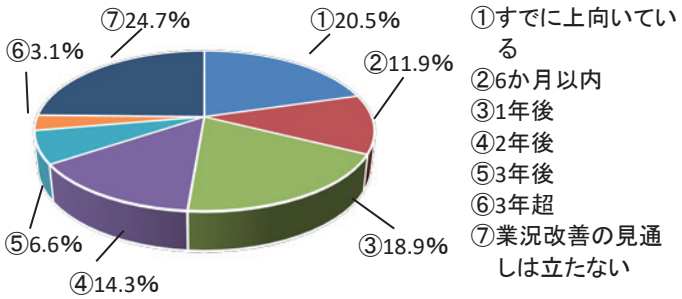


3.2024年の御社の売上額の伸び率は、2023年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。
～売上額の伸び率は、1年前は減少するとの割合が多かったが、今回は増加するとの割合が多くなった～

2023年と比較した2024年の売上額の伸び率については、「10%未満の増加」～「30%以上の増加」まで合計すると、増加するとの回答は計37.6%を占め、1年前と比較すると5.6%増加した。一方、「10%未満の減少」～「30%以上の減少」まで合計すると、減少するとの回答は計27.7を占め、1年前と比較すると9.3%減少した。1年前は減少するとの割合がやや多かったが、今回は増加するとの割合が多い結果となった。

4.御社では、自社の業況が上向く転換点をいつ頃になると見通していますか。
～51.3%がおおよそ1年以内に業況が上向くと予想。1年前よりわずかに2.3%増加した。

自社の業況が上向く転換点の時期については、①「すでに上向いている」が20.5%、②「6か月以内」が11.9%③「1年後」が18.9%となり、おおよそ1年以内に上向くとの回答が51.3%を占め、1年前よりわずかながら増加した。一方、⑦「業況改善の見通しは立たない」との回答も24.7%あり、1年前とほぼ同じ割合であった。



5.2024年を展望したとき、御社では販売価格や仕入価格の動向をどのように見通していますか。
～仕入価格の上昇分を販売価格に十分転嫁できない状況～

販売価格動向の見通しについては、「大幅な上昇（10%以上）」が8.3%、緩やかな上昇（10%未満）」が44.6%で、上昇するとの回答が計52.9%であった。一方、「下落」するとの回答は5.5%であった。仕入価格動向の見通しについては、「大幅な上昇（10%以上）」が24.6%、「緩やかな上昇（10%未満）」49.2%で、上昇するとの回答が計73.8%であった。一方、「下落」するとの回答は2.0%であった。仕入価格の上昇分を販売価格に十分に転嫁できない状況がうかがえる結果となった。

お客さま景況インタビュー

インタビュー日付
2023 年 11 月 20 日

有限会社　白鳩商会

代　　表　　者	宮川　忠利
本　社　工　場	横浜市金沢区鳥浜町 5-9
創　　業	昭和 21 年 8 月
事　業　内　容	クリーニング業

創業 77 年を経る老舗のクリーニング会社です。働く方のユニフォーム等をクリーニングして畳むまでを高い品質と仕上がりで、多くのお客様や社会に貢献している同社の経営者のお話を聞かせて頂きました。

Ⅰ．景況について

新型コロナウイルス感染症流行時には、飲食関係の取引先の営業停止や、蔓延防止のためのリモートワークの普及により、ユニフォーム等の着用頻度が減少し、受注が約 30%減少するなど大きな影響を受けました。補助金の活用や新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことにより、社会が少しずつ動き出したことで、回復の兆しも見えますが、まだ以前の業況には回復しておらず、現在も原材料高騰等の不安が続いています。しかし、家庭用洗濯機やコインランドリーが普及している中で、企業のユニフォームのクリーニングは個人では負担が掛り、ユニフォームの需要は今後もなくなることはないとの考えから、当社ではユニフォームに特化したクリーニングを行っています。また、汚れが落としにくいワークシューズ等の特殊なクリーニングも行っており、提供する商品を増やすことで需要も益々増えていくと確信しています。さらに、少しでもコストを抑えるため経費削減に努めており、商品の搬入状況によって

～信頼される誠実な企業をめざして～

人員や労働時間の調整を行い、人件費削減を図っています。当社で最もコストが掛るのは、ボイラーで使用するガスや電気代です。現在は機械を半分程に減らし、システムも大きく変わったことで、経費削減だけでなく業務効率化にも繋がりました。以前は、商品をアイロンで挟んでプレスして乾かし 1 時間で 50 点程の仕上がりでしたが、現在はトンネルフィニッシャーという機械で熱と空気で繊維を乾かす方法に変わり、1 時間で 100 点程乾かせるようになりました。今後も高い品質とスピード感で商品をお客様にお届けしたいと思います。

Ⅱ．働きやすい環境づくり

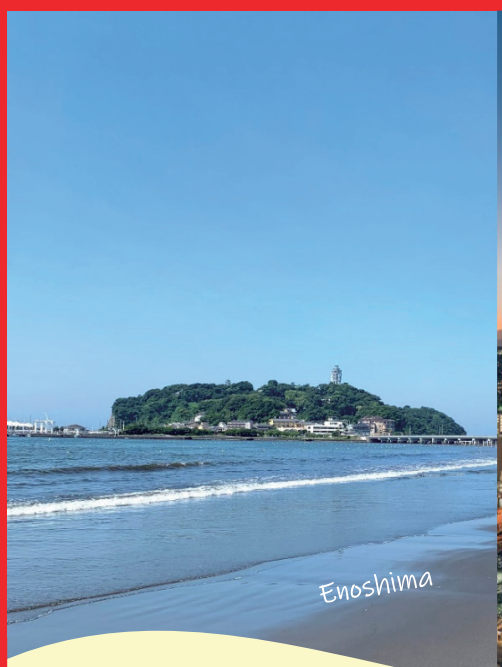
当社工場のある福浦、幸浦のエリアは自動車産業が盛んであり、外国人の方が多く、家族で働きにくる方がたくさんいます。当社では外国人の奥さまがパートとして働いており、女性が活躍できる環境になっています。また、工場内はもの凄く暑いことから、従業員一人ひとりにスポットクーラーを当てるようにしています。品物は動くが、人は動かないことを心掛け、負担を軽減できるようにしています。現在、多くの業種で人手不足となっていますが、当社では従業員一人ひとりが少しでも快適な環境下で働けるよう努めていきます。

Ⅲ．今後の景況について

景況は、益々厳しくなると思いますが、当社とメインでお取引頂いている食品会社では、今の景況下だからこそパートやアルバイト、人材派遣等を活用し、従業員を積極的に採用しています。従業員が増えることでユニフォームへのクリーニングに対する期待は益々大きくなっていくと思います。

代表取締役　宮川　忠利

これからもお客様が気持ちよく働けるよう、社会に貢献し、信頼される誠実な企業であり続けたいと思います。



かなしんデジタル観光サイト

「かなしんデジタル観光サイト」では、当金庫エリア内の観光活性化を応援するために、地元で活躍するお店をホームページで紹介しております！

かながわ 魅力情報満載！

県内４つのエリアから、
話題の施設や隠れた名店など
多彩なお店をご紹介！
皆様のご来店、ご利用を
お待ちしております！

楽しさ満載「Active」と
美味しいグルメ「Food」

かなしん デジタル観光サイト

Please access！

かなしん 検索

※最新の情報につきましては、各施設のHPをご確認ください。(各施設のHPは外部サイトへのリンクとなります)
※一部施設では特典をご用意しております。ご利用の際はサイト画面をご提示ください。
※特典内容や条件は施設によって異なります。また、特典内容は予告なく変更または終了する場合がございます。(他の特典やクーポンとの併用不可)

かなしんデジタル観光サイトは、日本財団「わがまち基金」を活用した地域創生支援スキームにおける助成事業に基づき、かながわ信用金庫の営業エリア内の観光活性化事業の取り組みとしてホームページ上で公開しております。日本財団「わがまち基金」は、地域に新たなお金の流れを創出することで、地域の課題解決や地域の独自の強みを活かした自立的かつ持続可能な社会の創生を図ることを目的としたプロジェクトです。

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

本レポートは、情報提供のみを目的とした標記時点における当金庫の考え方を示したものです。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなされますようお願いします。また、この資料は、当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

発　行　かながわ信用金庫
住　所　〒238-0004　横須賀市小川町7番地
TEL　046－826－1515（平日9:00～17:00）
編　集　株式会社　かなしんトータルサービス
住　所　〒235-0023　横浜市磯子区森1丁目10番10号
TEL　045－263－6363（平日9:00～17:00）

かながわ信用金庫 かなしん